

【第6回アフリカ開発会議サイドイベント】

JICA、英国政府、ICRC 共催

「ジェンダー平等と女性のエンパワメントが平和な社会を創る」 ーアフリカにおける取組みの課題と可能性について議論ー

国際協力機構（JICA）は、英国政府（UK Government 及び DFID: Department for International Development）、赤十字国際委員会（ICRC : International Committee of the Red Cross）との共催により、8月26日にヒルトン・ナイロビホテルにおいて、アフリカでの平和構築における女性の保護、エンパワメント、参画、リーダーシップにむけた挑戦と可能性をテーマとしたサイドイベントを開催しました。本イベントには、アフリカ各国の政府関係者や国際機関関係者、またケニアの市民社会組織等から約100名が参加し、フロアと登壇者との間でも活発な議論が交わされました。

冒頭、北岡伸一 JICA 理事長は開会挨拶にて、紛争が今もアフリカにおいて、多くの人々、とりわけ女性を苦しめている一方で、女性こそが紛争の解決を促し、国づくりの源泉となりうるとの認識を紹介しました。そして、未だ紛争の多発するアフリカにおいてこそ、国連安全保障理事会決議第1325号「女性・平和・安全保障」とその関連決議の実施を促進していくことが重要であると本イベント開催の意義を強調しました。

続いて、コービー・ベントレーDFID ソマリア事務所副代表とアンジェリーク・サー ICRC 地域事務所アドバイザーが基調講演に登壇しました。ベントレー氏は、女性のエンパワメントがいかに紛争解決・平和の定着に有効であるのか具体的な事例やデータを示して強調するとともに、自らのソマリアでの経験に基づきジェンダー平等と女性の権利保護推進に当たっての課題と必要な取り組みについて語りました。サー氏は、紛争下における女性・少女に対する性的暴力被害からの保護と予防、及び被害者への緊急医療に関する ICRC の取り組みと課題について、アフリカの現場からの実例を交えて示しました。



開会挨拶をする北岡 JICA 理事長



パネルディスカッションの様子

続いて行われたパネルディスカッションでは、JICA の田中由美子国際協力専門員がモデレーターを務める中、アフリカ連合（AU）のジェンダー専門家、自らも国内避難民であった北部ウガンダの女性行政官、及びコンゴ民主共和国の女性企業家、3人のアフリカ人実務家から、紛争影響下において女性の直面する問題の事例が示され、また平和と社会の安定に向けた女性の貢献の可能性とそのためにアフリカ社会においてどの

ような変革を要するかについて、議論がなされました。最後に久保田真紀子 JICA 国際協力専門員から、アジアの調査結果を踏まえたアフリカでの取組のあり方についての提案がなされました。これを受けて会場の出席者と基調講演者、パネリストの間で、ジェンダー平等と女性のエンパワメントに向け、アフリカ各国ならびに国際社会が取り組むべき課題について活発な意見交換がなされ、最後に、単なる議論を越え、実際に女性の意思決定への参画とリーダーシップ強化に向けて具体的な行動取っていくことが、アフリカの平和と安定のために必要であるとの認識が共有されました。

JICA は今回のイベントで提言されたように、アフリカ各国自身の取り組みを尊重しつつ、コミュニティ活動や政策決定の場面など、様々な場面で女性のエンパワメント、活躍が進められるよう引き続き努力を行っていきます。

■本イベントの登壇者

【開会挨拶】

- ・北岡伸一 JICA理事長

【基調講演】

- ・コービー・ベントレー DFIDソマリア事務所副代表
- ・アンジェリーク・ガブリエル・テニング・サー ICRC地域事務所アドバイザー（ダカール）

【パネリスト】

- ・ジャン・ボスコ・ブテラ アフリカ連合 女性・平和・安全保障担当特別代表
- ・ウンジア・マルティン ウガンダ共和国マラチャ県 主席行政官
- ・パトリシア・ベリンガ-ゲスケ コンゴ民主共和国企業連合全国労使委員会議長
- ・久保田真紀子 JICA 国際協力専門員

【モデレーター】

- ・田中由美子 JICA国際協力専門員